
平成24年度(2012年度)事業計画

(平成24年 4 月 1 日～平成25年 3 月 31 日)

1. 総務委員会

1) 年次学術集会

第 57 回日本透析医学会年次学術集会は、社会医療法人北楡会札幌北楡病院副院長 久木田和丘会長が主宰して、平成 24 年 6 月 22 日（金）・23 日（土）・24 日（日）の 3 日間、京王プラザホテル札幌等を会場として開催する。

今回のメインテーマは「多彩な病態-三面六臂の血液浄化-」Three faces and six arms-active work in many fields of blood purification-を掲げて開催する。

<会長講演>

「透析医学とわれわれの携わり」

<特別講演>

「臨床倫理学入門」, 「命をどう捉えるか」, 「災害から暮らしを守るために〜知っておきたい基礎知識〜」

<教育講演>

「透析患者に対する薬物投与の特殊性」, 「透析患者の悪性腫瘍を見逃さない」, 「腎移植の現状と諸問題」, 「腎移植に際しての尿路の諸問題」, 「EPS 予防と治療への闘い」, 「透析患者の愁訴の見方と対策」

<シンポジウム>

「透析医療と男女共同参画」5 題, 「透析患者の運動療法を考える」5 題, 「AKI と透析導入—そのタイミングを計る—」7 題, 「透析と栄養: 病態, 評価から患者指導まで」5 題, 「予後影響因子としての CKB-MBD」9 題, 「腹膜再生と腹膜透析治療 modality」6 題, 「超高齢社会を迎える中での End-of-Life Care を考える〜看護のスタンスで高齢者の QOL を考える〜」5 題, 「東日本大震災後の透析災害対策の課題」7 題, 「今問われる腎性貧血治療の質」7 題, 「希少疾患 Fabry 病の診断と治療に関する最近の知見」7 題, 「臨床研究の道標〜全ての医療者に質の高い学会発表を」2 題, 「透析液清浄化から見えること〜装置コンセプトと実際の水質管理〜」5 題

<ワークショップ>

「認定看護師の臨床現場と将来」7 題, 「アミロイドーシス—基礎と臨床—」6 題, 「死因上位を占める感染症: 実態と対策」7 題, 「各種疾患急性期における血液浄化療法の新しい modality」5 題, 「透析患者の無症候性脳血管障害」8 題, 「各種血液浄化療法の効率と予後を考える」6 題, 「バスキュラーアクセス—新技術の開発に向けて—」8 題, 「高齢者透析と医療連携」5 題, 「腎性副甲状腺機能亢進症 Up Date」6 題, 「在宅透析と長時間透析」9 題, 「日々対応する合併症」6 題

<学会委員会企画>

『栄養問題検討ワーキンググループ企画: 「透析患者の食事療法基準」4 題』, 『専門医制度委員会企画: 「専門医制度の課題と方向性」4 題』, 『学術委員会企画: 「透析導入基準に関して」6 題, 「慢性血液透析の非導入と継続中止に関する提言」5 題, 「透析処方」6 題』, 『保険委員会企画: 「新たな血液浄化器の機能分類」5 題』, 『統計調査委員会企画: 「統計調査の現状と未来」7 題』, 『腎不全総合対策委員会企画: 「ESRD (CKD5) の総合対策」7 題』

<国際ワークショップ>国際学術交流委員会企画

「Life-long dialysis modality: HD, CAPD or Both?」4 題, 「Toward better reimbursement system for dialysis therapy」4 題

<国際シンポジウム>

「Influence of Vascular Access upon Cardiac Function and Peripheral Circulation」5 題

<よくわかる講座>

「急性腎障害」2 題, 「急性血液浄化」2 題, 「透析患者の合併症 1」2 題, 「透析患者の合併症 2」2 題, 「バスキュラーアクセス 1」2 題, 「バスキュラーアクセス 2」2 題, 「バスキュラーアクセス 3」2 題, 「透析技術の進歩」2 題, 「透析患者の栄養管理」2 題, 「腹膜透析 1」2 題, 「腹膜透析 2」2 題, 「アフエレシス」2 題, 「肝炎」2 題, 「透析液」2 題, 「透析患者の合併症 3」2 題, 「リンの管理 1」2 題, 「リンの管理 2」2 題, 「嚢胞性腎疾患」2 題, 「透析患者の合併症 4」2 題

<市民公開講座>

「腎臓病は怖くない!」3 題

平成 24 年 5 月 19 日（土）13:15~15:15 旭川
トーヨーホテル・丹頂の間にて開催予定

「腎臓を守ろう」3 題

平成 24 年 6 月 23 日（土）15:30~17:30 札幌
市教育文化会館・大ホールにて開催予定

2) 評議員会

平成 24 年度評議員会を、平成 24 年 6 月 21 日（木）16:00~ 京王プラザホテル札幌において開催する。

3) 通常総会

第 57 回通常総会を、平成 24 年 6 月 23 日（土）13:00~15:00 さっぽろ芸術文化の館・ニトリ文化ホールにおいて開催する。

学会賞・奨励賞講演を、平成 24 年 6 月 23 日（土）15:50~16:50 同会場において開催する。

4) 役員会に関する件

・常任理事会・理事会: 平成 24 年 5 月・6 月・11 月・

平成 25 年 3 月 計 4 回開催する。

・監査会：平成 24 年 6 月に開催する。

5) 透析施設会員名簿の発行

会員名簿は例年どおり発行されるが、個人情報保護の観点から、電話番号や責任者氏名などの公表を希望しない施設については、引き続きその情報を掲示しない方針である。会員専用ホームページに検索マップを開設し、施設・賛助会員の検索ができるようにしたが、さらなる充実を図るとともに個人情報の観点から、施設の公表を希望しない場合には情報を掲示しない方針である。

6) 小委員会

(1) 危機管理小委員会

- ① 日本透析医会との協力事業として推進してきた透析医療事故防止体制の確立に関する研究を継続して行うとともに、医療過誤防止の啓発活動に務める。
- ② 日本透析医学会統計調査委員会に登録されている各地域協力委員ならびに日本透析医学会常任理事らも参加し、インターネットを利用した日本透析医会の災害対策メーリングシステムが構築されている。今年度もこのシステムを利用し、災害時の緊急情報の共有ならびに支援対策の確立に向けて活動する。
- ③ 厚生労働省等から報告される、薬剤・医療器具などに関連する緊急安全情報の中で、透析医療にかかわるものについて、日本透析医学会ホームページを利用して会員への周知を図る。

1) 東日本大震災学術調査ワーキンググループ

東日本大震災で何が起こったのかを明らかにして、将来の災害の減災と円滑な支援体制の確立に努める。第 57 回日本透析医学会学術集会で一次報告を行い、その内容を報告書として完成させる。

(2) HP・電算機小委員会

学会ホームページ (HP) のさらなる充実を図る。

- ① 学会活動ならびに関連情報の迅速な公開・更新を行う。
- ② 各種委員会、小委員会、ワーキンググループ活動内容を積極的に HP に掲載する。
- ③ 開設した会員専用ページのさらなる充実を図る。
- ④ HP のリニューアルについて検討する。

(3) 腎不全（看護師・腎臓病薬物療法認定薬剤師・専門薬剤師）認定・育成に関する小委員会
腎不全看護師育成に関し、腎不全看護学会と共同で現在の専門看護師育成に係る問題点などを取

り上げ、これに対する対策を検討してきた腎不全看護師育成に関する小委員会を改組して、専門看護師育成については引き続き活動するとともに、腎臓薬物療法認定薬剤師及び専門薬剤師を本学会と日本腎臓学会・日本腎臓病薬物療法学会と共同で認定、育成することを検討する。また、認定薬剤師・専門薬剤師の資格取得に関わる申請基準、及び資格取得に関わる研修単位の認定について検討する。

(4) 感染調査小委員会

本小委員会は院内感染の集団発症が発生した時には、関係者の協力を得て機動的に対応するとともに、今後発生の頻度が高いと思われる感染症の事例に機動的に対応する。

(5) 法人問題検討小委員会

本小委員会は平成 24 年 6 月末を目途に新法人移行認可申請書に係る、定款変更等をはじめ、一般社団法人移行に伴う諸事項への対応を検討する。

(6) 男女共同参画推進小委員会

- ① 医師復職プログラム作成プロジェクトを立ち上げる。
- ② 第 57 回日本透析医学会学術集会・総会におけるシンポジウムで、「透析医療と男女共同参画」を行う。

(7) 研究者の利益相反等検討小委員会

本小委員会は理事長の諮問により利益相反状態の問題の有無・程度の検討、審査請求に対する判断・マネジメント等を行う。

7) 学会との連絡、協力関係

①「日本医学会」、② 日本慢性腎臓病 (CKD) 対策協議会、③ 透析療法合同専門委員会、④ 内科系学会社会保険連合、⑤ 臓器移植関連学会協議会、⑥ 末期腎不全治療説明用小冊子作成、⑦ 糖尿病性腎症合同委員会、⑧ 登録腎生検予後調査検討委員会、⑨ 日本透析医会との連絡協議会、⑩ 日本医療器材工業会と日本透析医学会の連絡協議会、⑪「日本専門医制評価・認定機構」、⑫「血液浄化療法業務ガイドライン策定委員会」等関連各学会等と協力、連携を密にしていく。

2. 財務委員会

平成 20 年 12 月に新公益法人制度が施行され、平成 25 年 11 月末日までに新法人への移行を完了しなければならない。本学会としては平成 24 年度中の新法人

移行を目指して、平成 20 年度改正の新・新公益法人会計基準の導入準備を行い、新・新基準による経理の実施及び公益法人制度改革三法の成立に伴う、公益法人等の指導監督等に関する関係省庁連絡会議申し合わせとして平成 16 年に改正された公益法人会計基準（平成 16 年の改正基準）の見直しに伴う、内閣府公益認定等委員会から示された、「公益法人の設立許可及び指導監督基準の運用方針」による「内部留保」の水準について、公益事業としての適切な水準維持並びに税務を含めた適正な会計処理を継続的に遂行し、学会として各常置委員会、小委員会の諸事業を積極的に推進し、多大な成果が得られるよう財務を通じて協力助成する。

また、財務業務の全般的な見直しを継続して検討する。

3. 編集委員会

1) 和文誌について

日本透析医学会雑誌を毎月 1 冊、45 巻 1 号～12 号として発行する。学術集会特別号（抄録集）を supplement として発行する。

引き続き科学技術振興機構（JST）の J-STAGE にて和文誌の電子ジャーナルを公開していく。電子ジャーナル化小委員会については、特に問題が発生しなければ本年度をもって閉会とする。

2) 欧文誌について

日本透析医学会の公式欧文誌は、Therapeutic Apheresis and Dialysis (TAD) として引き続き年 6 回刊行する。

4. 学術委員会

1) 学会賞・奨励賞の選出

選考規定に則って学会賞・奨励賞の選考を行い、理事会の承認を得る。

2) 小委員会活動

(1) 血液浄化療法の機能・効率に関する小委員会 (川西秀樹委員長)

- ① 国際標準化機構（ISO）にて「血液透析のための医療用具の安全操作に関するガイドライン」が検討されている。これまでの透析液清浄化基準と合わせて討議するため、日本臨床工学技士会、日本医療器材工業会人工腎臓部会の協力を得て「ISO 対策ワーキンググループ」を継続する。さらに ISO 会議（モスクワ・ロシア、平

成 24 年 9 月 10～14 日）に委員を派遣し、引き続き本邦の見解を ISO 基準へ反映させる。

- ② 新たな「血液浄化器性能評価法（血液透析、血液透析濾過/血液濾過）」を決定し学会誌に掲載・報告する。
 - ③ 第 57 回日本透析医学会学術集会において、委員会セッション「コンセンサスカンファレンス：新たな血液浄化器の機能分類」を開催し、新たな血液浄化器機能分類を提言する。
 - ④ 昨年発刊した「委員会報告：エンドトキシン阻止フィルタ管理基準」の英文化を行い広く海外に提示する。
 - ⑤ 昨年タイの洪水に関連し血液透析用回路の供給が不安定となった。その一因として血液回路の種類の過多が指摘されている。安全性の観点よりも標準回路の策定と規格の統一化が必須と考える。そのため日本臨床工学技士会と協力して血液浄化用回路（血液透析・急性血液浄化）の規格統一を検討する。
 - ⑥ 学術委員会・ガイドライン作成小委員会の「血液透析ガイドライン作成ワーキンググループ、透析処方」へ協力し血液浄化の機能・効率に関するエビデンスをガイドラインへ反映させる。
 - ⑦ 血液浄化療法の機能・効率に関する臨床研究ならびに臨床治験を企画する。
- (2) ガイドライン作成小委員会（友 雅司委員長）
- ① 血液透析療法ガイドライン（渡邊有三グループ長）：
血液透析療法ガイドラインの作成にむけて、各サブグループでタスクフォースを組織し、活動を行う。第 57 回学術集会において下記のセッションを開催する。
透析導入基準に関して（日本透析医学会コンセンサスカンファレンス）、透析処方（日本透析医学会コンセンサスカンファレンス）、慢性血液透析の非導入と継続中止に関する提言（委員会企画）、2013 年中のガイドラインの完成に向けて、活動を行う。
 - ② CKD-MBD ガイドライン（深川雅史グループ長）：
2012 年 1 月に公聴会を開催し、ガイドラインの完成に向けて作業中である。2012 年中に和文誌に本ガイドラインを掲載するとともに、英文誌に発表すべく英文化に向けて作業を開始する。
 - ③ 透析患者における心血管合併症の評価と治療

に関するガイドライン（平方秀樹グループ長）：ガイドラインを作成し，本学会和文誌（透析会誌 44(5)：337-425, 2011）へ発表した．英文化を行い，本学会誌英文誌に発表する．

- ④ バスキュラーアクセスガイドライン改訂（久木田和丘グループ長）：

ガイドラインを英文化し本学会誌英文誌に発表する．

- ⑤ 透析患者の糖尿病治療ガイドライン（中尾俊之グループ長）：

2012 年に本ガイドラインを完成し，透析医学会和文誌に発表する．

- ⑥ 透析患者の C 型肝炎治療ガイドライン（秋葉隆グループ長）：

ガイドラインを英文化し，本学会誌英文誌に発表する．

- ⑦ 栄養問題検討ワーキンググループ（中尾俊之グループ長）：

「成人の維持透析患者に対する食事療法基準」の作成に関しての活動を行う．

- ⑧ 腎性貧血ガイドライン

「2008 年版日本透析医学会：慢性腎臓病患者における腎性貧血治療のガイドライン」の発表より 5 年弱が経過しており，腎性貧血治療 GL の改定準備にむけての活動を開始する．

- (3) 医師・コメディカルスタッフの教育・研究体制の在り方小委員会（重松 隆委員長）

対象を医師とコメディカルにわけ，特に，後者について今後の透析医療の見通しを探る中から，研究の方向性を指し示す定期的な検討会議を設定する．

透析医療に従事するコメディカルに，学会等を通じた統一的なプログラムのスケジュールを立案・提言する．

- 3) コメディカルスタッフ研究助成基金運営委員会（平方秀樹委員長）：

例年通りの方法で適切な応募研究課題の中から選考する．

5. 統計調査委員会

- 1) 2011 年度に行われた「わが国の慢性透析療法の現況」に関するアンケート調査（2011 年 12 月 31 日現在）の内容を集計し，日本透析医学会学術集会・総会に速報として報告する．

- 2) 日常診療に必要な内容を抜粋し図表化した「図説

わが国の慢性透析療法の現況（2011 年 12 月 31 日現在）」を作成し，施設会員などに配布する．

- 3) 2011 年度に行われた「わが国の慢性透析療法の現況」に関するアンケート調査（2011 年 12 月 31 日現在）の内容の詳細を CD 化して，施設会員などに配布する．

- 4) 2013 年 1 月の本学会誌に「わが国の慢性透析療法の現況（2011 年 12 月 31 日現在）」を掲載する．

- 5) 「わが国の慢性透析療法の現況（2010 年 12 月 31 日現在）の英語版を作成し，本学会誌英語版（Therapeutic Apheresis and Dialysis）に掲載する．

- 6) 2012 年 12 月 31 日時点での慢性透析療法の現況について，透析医療内容の変遷などを把握するためのアンケートを作成送付し，適切な回収作業を行う．

- 7) 会員，各委員会などから統計調査委員会に要望のあった調査・解析や統計調査委員会の委員会研究に加え，公募研究に応募された統計解析をサポートし，わが国の透析医学の発展に寄与する．

- 8) 統計調査委託業者の変更に伴い，新設したデータベース管理ワーキンググループとともに，従来から蓄積されてきたデータベースの検証を継続し，今後の統計調査とその解析に十分な信頼性のあるデータベースを構築・管理する．

- 9) 統計調査データベースを用いた公募研究を募集し，統計解析小委員が協力して研究を行い，学会発表や論文文化を行う．

- 10) 統計調査委員会委員や統計解析小委員会委員，さらには公募研究者の指導などの目的で，統計解析に関する講習会などを開催する．

- 11) 2011 年度末の「PD レジストリ」の結果を踏まえ，2012 年末の調査方法や調査項目などを再検討する．

- 12) 2011 年度末に行った「震災関連調査」の結果を踏まえ，2012 年末の調査方法や調査項目などを検討する．

- 13) 疫学研究に関する倫理指針の趣旨に沿って，調査結果などを広く公表し，公明性を高める．

6. 専門医制度委員会

- 1) 日本透析医学会専門医制度委員会認定の専門医は，一層その透析専門医としての「質」を継続維持していくため 2005 年度より，本学会専門医の更新を目指す医師を対象とする「セルフトレーニング問題」を導入しておりその問題を学会誌に掲載し，専門医認定委員会の厳密な審査で所定の正答率をクリアした専門医には一定の研修単位（5 単位）を認定

している。

2009 年度から専門医更新必須条件であるセルフトレーニング問題正答は（認定期間 5 年の内 1 回以上正答する。）として実施している。

2012 年度のセルフトレーニング問題についての解答方法は、様々なデータ（正答率・識別指数等）抽出が可能な、マークシート方式で今年度より実施する。なお、問題は学会誌に掲載せず、応募者に問題・解答用紙（マークシート）を送付し、受付期間は 5 月 1 日～5 月 31 日迄 で実施し問題・正解・解説は 9 号に掲載する予定である。

- 2) 初回専門医試験を目指す申請者の提出サマリー記載の参考として、専門医の資格審査に必要な診療実績記録集、典型的な記載モデル集「専門医資格診療実績（症例要約）モデル集」改訂第 5 版（全面改訂版）（専門医認定委員会編集・専門医制度委員会発行）が前半部に「透析専門医のための研修カリキュラム」を挿入してより内容を充実した実用的なモデル集として刊行されており、専門医認定申請時に申請者各々に送付予定である。

細則第 6 章、第 23 条臨床研修の診療実績の最低必要項目の変更が 2012 年 4 月 1 日から実施されるため、提出症例要約 18 症例となりすべて必須となる。

- 3) 専門医認定申請における客観式筆記試験および口頭試問試験の参考書としての専門医認定試験問題解説集「改訂第 7 版（全面改訂版）」については、昨年度は東日本大震災の影響もあり、発行予定のスケジュールが変更されたが、2012 年度は専門医認定申請受験に向けて刊行する予定である。

従来の解説集の改訂作業は執筆者、専門医試験委員会、出版社のみで行われており査読（ピア・レビュー）は行われていなかった、今回は執筆陣も大きく入れ替わり、また目次にも若干の変更が加えられたため、査読（ピア・レビュー）も含めて十分な作成準備期間となっている。

各主題については試験問題例として A タイプ、X2 タイプ、口頭試問の 3 種類の問題を掲載し作成される予定である。

- 4) 専門医認定委員会、専門医試験委員会、指導医認定委員会、施設認定委員会の役割を見直し、組織改編（カリキュラム小委員会、専門医・指導医認定小委員会、専門医試験小委員会、施設認定小委員会）を行う予定である。
- 5) 日本専門医制評価認定機構からの検討要請が迫られている事項を、透析専門医のレベル向上のため『透

析専門医のための研修カリキュラム』については、カリキュラム小委員会が、日本内科学会や日本腎臓学会のカリキュラムを参考に、現カリキュラムに内容（到達目標など）を追加する専門医認定新規申請書類内に専門医資格取得に必要な教育課程チェックリストである『透析専門医のための研修カリキュラム』到達状況を義務づけることを昨年同様実施する。

- 6) 2015 年より、専門医試験受験資格として、基本学会の専門医等の取得を条件とするため、基本学会の専門医等の資格を有していない会員のために、専門医試験受験のための特例緩和措置を実施する予定である。

- 7) 専門医制度における「倫理の問題」についても審議し昨年同様啓発する。

- 8) 2012 年度専門医認定審査は、2012 年度・2011 年度に引き続いて書類審査、客観式筆記試験（問題形式は A タイプ、X2 タイプ）、口頭試問試験の 3 者の総合的な判断で行い、2010 年度・2011 年度に実施した試験の分析結果を考慮して合否を決定する予定である。

2010 年から優良な試験問題を 1,000 題プールを目指して、効率的な試験問題作成を可能にするためデータベース化中である。

- 9) 専門医制度規則・施行細則については、現状に合った見直しが継続審議中であり、2012 年 4 月 1 日から専門医の資格、規則第 4 章、第 1 節、第 8 条、細則第 6 章、第 23 条臨床研修の診療実績の最低必要項目の変更が 2012 年 4 月 1 日から変更実施される。

専門医制度組織改編の実施、専門医の資格の改訂追加（一段階方式）に伴い受験緩和措置の実施については 2012 年 1 月のメール理事会により承認され、再度修正追加し実施計画を練ることとなった。

また施設認定における認可のシステム方法および名称変更（認定指導施設・認定教育施設）等の問題についても担当委員会が十分な論議を重ね理事会・評議員会への答申案を作成する予定である。

- 10) 専門医認定（専門医認定試験）、専門医認定と更新、指導医認定と更新、認定施設・教育関連施設認定と更新、の公示・受付等については下記の通りである。

① 第 23 回専門医認定

申請受付の会告 2012 年 3 月～5 月

申請書類受付

2012 年 6 月 1 日～6 月 30 日

専門医認定試験（筆答および口頭による学力試験試問）10 月 21 日・（第 3 日曜日）

試験会場 都市センターホテル(東京都)

第3回専門医認定(1993年度認定・1998年度更新・2003年度更新・2008年度更新)更新認定
更新申請受付の会告 2012年8月～10月
更新申請書類受付

2012年11月1日～11月30日
第8回専門医認定(1997年度認定・2003年度更新・2008年度更新)更新認定
更新申請受付の会告 2012年8月～10月
更新申請書類受付

2012年11月1日～11月30日
第13回専門医認定(2002年度認定・2008年度更新)更新認定
更新申請受付の会告 2012年8月～10月
更新申請書類受付

2012年11月1日～11月30日
第18回専門医認定(2008年度認定)更新認定
更新申請受付の会告 2012年8月～10月
更新申請書類受付

2012年11月1日～11月30日

② 第23回指導医認定

申請受付の会告 2012年10月～12月
申請書類受付

2013年1月6日～1月31日
第3回指導医認定(1993年度認定・1998年度更新・2003年度更新・2008年度更新)更新認定
更新申請受付の会告 2012年9月～11月
更新申請書類受付

2012年12月1日～12月28日
第7回指導医認定(1997年度認定・2003年度更新・2008年度更新)更新認定
更新申請受付の会告 2012年9月～11月
更新申請書類受付

2012年12月1日～12月28日
第13回指導医認定(2003年度認定・2008年度更新)更新認定
更新申請受付の会告 2012年9月～11月
更新申請書類受付

2012年12月1日～12月28日
第18回指導医認定(2008年度認定)更新認定
更新申請受付の会告 2012年9月～11月
更新申請書類受付

2012年12月1日～12月28日

③ 第22回認定施設・教育関連施設認定

申請受付の会告 2012年4月～6月

申請書類受付

2012年7月15日～8月15日
第4回認定施設・教育関連施設認定(1995年度認定・1998年度更新・2003年度更新・2008年度更新)更新認定

更新申請受付の会告 2012年4月～6月
更新申請書類受付

2012年7月15日～8月15日
第7回認定施設・教育関連施設認定(1997年度認定・2003年度更新・2008年度更新)更新認定
更新申請受付の会告 2012年4月～6月
更新申請書類受付

2012年7月15日～8月15日
第12回認定施設・教育関連施設認定(2002年度認定・2008年度更新)更新認定
更新申請受付の会告 2012年4月～6月
更新申請書類受付

2012年7月15日～8月15日
第17回認定施設・教育関連施設認定(2008年度認定)更新認定
更新申請受付の会告 2012年4月～6月
更新申請書類受付

2012年7月15日～8月15日

7. 国際学術交流委員会

1) 第57回日本透析医学会学術集会・総会(久木田和丘会長)にて国際セッションを開催する。

(1) Symposium. Influence of Vascular Access upon Cardiac Function and Peripheral Circulation
Vascular Accessの心機能及び末梢循環への影響
司会: 大平整爾(札幌北クリニック)
春口洋昭(飯田橋春口クリニック)

1. Influence of Arteriovenous Access on Cardiac Function: Naobumi Mise (Mitsui Memorial Hospital)
2. VA-Artery Surfacing Method-for the Patients with Low Cardiac Function: Noriyoshi Murotani (Chiba Social Insurance Hospital)
3. Blood Flow of Arteriovenous Grafts and its Influence Upon Cardiac Function: Jeffrey H. Lawson (Duke University Medical Center)
4. Surgical Treatment of Access-Related Ischemia: Volker Mickley (Clinical Center Mit-

telbaden, Rastatt, Hospital)

5. Diagnosis and Treatment for Peripheral Ischemia After Vascular Access Synthesis : Akira Miyata (Japanese Red Cross Kumamoto Hospital)

- (2) Workshop 1. Life-long dialysis modality : HD, CAPD or Both?

司会：井関邦敏（琉球大学医学部附属病院）

伊丹儀友（母恋日鋼記念病院）

1. Lessons from IDEAL Study : Bruce A Cooper (Royal North Shore Hospital)
2. PD First Policy : Philip Kam-Tao LI (Prince of Wales Hospital)
3. Clinical Impact of a Combined Therapy of Peritoneal Dialysis and Hemodialysis : Keitaro Yokoyama (Jikei University School of Medicine)
4. Life-long Dialysis Modality : HD, CAPD or Both? A Story from Thailand : Kriang Tung-sanga (King Chulanlongkorn Memorial Hospital)

- (3) Workshop 2. Toward better reimbursement system for dialysis therapy

司会：平方秀樹（福岡赤十字病院）

新田孝作（東京女子医科大学）

1. The New US Medicare Dialysis Prospective Payment system-Financing Realities for US Health Insurance : Allan Collins (USRDS)
2. Towards Better Reimbursement for Dialysis Therapy-The Australian System : Stephen McDonald (ANZDATA Registry)
3. The Impact of Outpatient Dialysis Global Budget on Care Quality : Experiences from Taiwan : Wu-Chang Yang (Taipei Veterans General Hospital)
4. Japanese Payments System ; Past, Present, and Future : Hideki Kawanishi (Tsuchiya General Hospital)

- (4) ポスター発表：3 題

座長：新田孝作（東京女子医科大学）

伊丹儀友（母恋日鋼記念病院）

1. Haemodialysis in Myanmar : キン マウンマウンサン (Myanmar Nephro-Uro Society)
2. Dialysis for Acute Kidney Injury in Myanmar : キン シダスウィン (Sanpya Thingankyun Hospital Renal Medicine)

3. Status of Diabetic Nephropathy Patients on Maintenance Hemodialysis (MHD)- Observations from a Specialized Diabetes Center : Md Masud Iqbal (National Institute of Kidney Diseases)

2. AKI のワーキンググループ会合には 2010 年度は 3 委員（井関邦敏, 海津嘉蔵, 平和伸仁の各委員）が San Diego, USA へ, 2011 年度は海津嘉蔵, 平和伸仁の 2 委員が参加した実績がある. 一層の国際交流と協力関係を構築するために海外で開催される国際会議や学会に依頼があれば日本透析医学会から代表を派遣する.

8. 評議員選出委員会

- 1) 評議員の任期は 2 年であるため, 平成 24 年度は選出を行わない.
- 2) 評議員選出上で検討すべき事項が会員より提出されれば, これを審議する.
- 3) 規程の整備を行う.

9. 保険委員会

平成 26 年度保険改定に向けて内科系社会保険連合 (内保連) の血液浄化委員会, 日本腎臓学会, 日本アフェレシス学会, 日本急性血液浄化学会, 日本小児腎臓病学会, 日本腹膜透析医学会と連会して提案項目の検討を行う.

前年度に引き続き「透析液水質確保に関する研修」を透析医学会学術集会・総会ならびに専門医制度委員会が認定している地方学術集会ならびに全国規模学術集会において実施する.

10. 倫理委員会

- 1) 透析医学会として対応すべき倫理に関する課題に対して, 適時委員会を開催し審議する.
- 2) 社団法人日本透析医学会 倫理委員会規程 (案) の策定を予定している.
- 3) 個人情報安全管理並びにその適切な取扱いをするため, 個人情報管理者である倫理委員長が個人情報の利用等の管理に適時対処する.

11. 腎不全総合対策委員会

- 1) 腎移植の普及に努める.

- (1) 腎移植への理解を深めるため、日本移植学会、日本臨床腎移植学会などと共同にて、日本透析医学会学術集会・総会、および関連学会・研究会などで臓器移植ネットワークの活動内容の紹介を含め、移植、特に献腎移植や生体腎移植の啓発活動を行う。
- (2) 日本移植学会、日本臨床腎移植学会、日本小児腎臓病学会と協力し、日本腎臓学会の「腎移植研修プログラム(教育セミナー、研修病院での研修)」への会員の参加を積極的に呼びかける。
- (3) 医療側、患者側の治療法選択と施設選択に役立てるために、上記学会と協力し合い末期腎不全統計の詳細な積極的な公開を進める。この実務に当たる腎不全総合対策委員会ワーキンググループでは、末期腎不全統計、preemptive 腎移植、保存期腎不全治療、腎代替法についてのコンセンサスなど、実質的な検討を行う。
また、その成果を学会誌、学会 Web、商業誌、monograph などで公開し、腎不全治療の啓発に努める。
- (4) ドナー不足に対して、各種学会・研究会などにおいて、臓器提供カードの配布を推進し、臓器提供の増加をはかる。また生体腎移植の実態について啓発を行う。
- (5) 会員に、改定された「臓器の移植に関する法律」のガイドラインについて広報し、「旅行移植」「病

腎移植」の問題についても積極的な啓発活動を行う。

2) 慢性腎臓病(CKD)対策を講じる。

- (1) 日本腎臓学会、厚生労働省が支援している進行性腎障害に関する調査研究班、本学会統計調査委員会と協力し、当委員会傘下の CKD 対策小委員会、腎臓病総合レジストリーワーキンググループを中心に、円滑なレジストレーション、および腎臓病(腎生検)記録カードによる有益なデータ解析が行えるように体制を強化する。
- (2) 小児についても、日本小児腎臓病学会を加えた上記機構と同様に進める。
- (3) 厚生労働省が支援している CKD 重症予防研究についても協力する。

3) 腹膜透析の普及に努める。

- (1) 日本透析医学会で作成された腹膜透析に関するガイドラインを基に教育セミナーなどを行うよう、透析医学会内で推進し、それらへの参加を会員に呼びかける。
 - (2) 日本腎臓学会にも働きかけ、腎代替療法の一つとしての腹膜透析を患者に十分説明できるよう、腎臓専門医に対し啓発活動を行う。
- ## 4) 患者が末期腎不全治療の選択が適正に行えるよう、日本腎臓学会、日本移植学会と合同で「末期腎不全治療選択」小冊子を改訂し、DVD を作成し、この配布と普及に努める。